

州都構想の骨格（案）

◎ 州都構想の目的

- 州都を目指した取組みで、より品格があり活力のある県へとレベルアップを図り、さらには九州全体のレベルアップに貢献
- 道州制が実現したときに、すぐに熊本が州都候補になれるよう準備

◎ 州都選定の視点

州都の条件を整理する視点

◎ 州都の条件

州都に求められる機能や役割等、
州都として選ばれる条件

◎ 州都に向けた取組みの方向性（現状と課題）

州都の条件に照らした本県の現状分析、課題抽出と、今後の取組みの方向性

第1回「くまもと未来会議」での議論に基づき整理

○地理的視点

州内各地からの交通アクセス

・交通の便がよく、人的交流が盛んな都市

現状

・九州の地理的な中心に位置し、阿蘇くまもと空港、縦軸としての九州自動車道・九州新幹線が存在

取組みの方向性

・熊本と長崎、大分、宮崎との横軸交通の充実等

○政治的視点

行政機関の集積、住民の熱意

・州政府が置かれる政治・行政の中心
・自信と誇りに満ちた住民

・九州農政局等の国の出先機関の存在
・観光、地域振興等、県境を越えた連携の推進
・住民の強い郷土愛

・一極集中ではなく多極型の九州における政治の中心
・九州を代表する国際都市
・州都論議への住民の主体的参加

○危機管理的視点

国防、災害、感染症等への対応

・国防、経済・資源、防災、防疫などの危機管理の基盤があり、州内全域を支援できる能力が高いこと

・豊富な水・食料
・陸上自衛隊西部方面総監部の存在
・適度な人口密度、管理が比較的容易な交通機関網

・九州各地への支援体制の整備等、危機管理の中核機能の充実

○暮らしやすさの視点

都市の雰囲気

・品格ある都市
・教育の充実

・熊本城などの歴史と文化
・藩校「時習館」や五高以来の伝統を受け継ぐ高等教育機関の集積

・歴史と文化の磨き上げ
・知の集積と全体のレベルアップ

など